

平成 20 年度再評価対象事業一覧表 (再評価実施後、一定期間(5~10年)が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業)  
 (対象：平成 15 年度再評価実施事業)

番号	項目	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果の要因の変化	コスト縮減や代替案等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業課案)
	再評価 時点 H15	牛津江川 広域基幹河川改 修事業  事業主体：県 事業地：牛津町 小城市	流路是正、狭窄部解消を行 い、治水安全度を向上し、 流域の浸水被害の軽減を 図る。 計画流量 140m <sup>3</sup> /s 計画治水安全度 1/50	全体事業費：C=51.9億円 工期：S40~H24 改修延長：L=5,700m 計画流量：140m <sup>3</sup> /s 計画治水安全度：1/50 事業内容：掘削・築堤・ 護岸、樋管18基、橋梁 13基、堰8基	轡ヶ里2号橋下流部につ いては概成している。 上流部についてはH9か ら用地買収に着手し促 進している。 国道34号江津ヶ里橋他9 橋完成 (H14末進捗率 79%) (事業費ベース) (年平均進捗率 2.1%)	(過去の災害実績) H2.7 浸水戸数 430戸 農地浸水面積 550ha (地域の状況) 上流の小城市内では、宅地化が 進んでいる。地元及び牛津江川 改修促進期成会の整備要望が 強い。	事業採択時と比 較し、単価上昇等 により事業費が 増大したが、流域 内の人口増加に よる資産増加も あり、費用対効果 の大きな変化は ないと考えられ る。 現在(B/C) 3.4	(コスト縮減策) 土工事において、 建設発生土の利用 促進を行う等によ りコスト縮減を図 る。	再評価実施後 5 年が経過	継続
	現時点 H20	総合流域防災事 業  事業地：小城市		前回評価時より事業費 が増額となった。  全体事業費：C=61億円 工期：S40~H30 改修延長：L=5,700m 計画流量：140m <sup>3</sup> /s 計画治水安全度：1/50 事業内容：掘削・築堤 護岸、樋管18基、橋梁 13基、堰8基	砂田橋下流部につ いては完成しており、上流 区間の約600mを残すの みとなっている。 上流部については用地 買収の促進を図ってい る。 国道34号江津ヶ里橋他 10橋完成 (H19末進捗率 83%) (事業費ベース) (年平均進捗率 1.9%)	(過去の災害実績) 同上  (地域の状況) 上流の小城市内では、宅地化が 進んでいる。地元及び牛津江川 改修促進期成会の整備要望が 強い。	最新のマニユア ルに基づき、費用 対効果(B/C)を 算出した。  一般資産被害額 農作物被害額 公共土木施設等 被害額等 B=97,233百万円 総費用額 C=16,361百万円 現在(B/C) 5.9	(コスト縮減策) ・ラバー堰の積極 的採用を行う等 によりコスト縮減を 図る。 ・土工事において、 建設発生土の利用 促進を行う等によ りコスト縮減を図 る。	再々評価実施後 5年が経過	昭和47年、平成 2年等の洪水被 害を軽減する ため、流路是 正、狭窄部解 消を行い、治水 安全度を向上し、 地域住民の安 心・安全を確保 するためには、 当事業の継続 が必要である。
	理由等				・鋼材単価の高騰による 工事費の増。 ・河川構造物の耐震検討 に関する新たな指針に よる構造物の検討費用 及び工事費の増。 ・河床掘削土の運搬距離 増による処分費増。 ・行財政改革等の予算縮 減を受け年度事業費が 減となったことによる 工期延長。					

